

84号 ウサギの下痢の原因

ウサギは、消化の仕組みが他の動物と違います。栄養の少ない草を食べ、腸にいるいろいろな最近の働きを借りて、栄養のあるタンパクなどに変えるのです。ですから、下痢が生死に関わることもまれではないのです。

よく飼い主さんが、「下痢をしているんです」と言って来院します。下痢というのは病気の名前ではなくて、症状ですので原因はいろいろあります。今回はその主な原因と予防についてお話しします。

はじめに、ウサギ特有の盲腸便を見て、「フンが水っぽくて下痢なんです」と飛んでくる飼い主さんがいますのでひとこと。これは夜便とも呼ばれ、夜中から明け方にかけて出ます。粘液に包まれてつやがあり、柔らかい少し大きめの黒いフンですが、これは下痢ではなく症状便なのです。ウサギはこれを肛門に口をつけて、直接食べてしまいます。このフンは高タンパク・高ビタミンの栄養がいっぱいなので、食べないと貧血や栄養不足になってしまいます。太り過ぎると肛門まで口が届かずに栄養が摂れなくなりますので、気をつけましょう。

下痢の原因としては次のようなものがあります。

1) 食餌によるもの

飼料中の繊維の量が少なかったり、高タンパク質・高でんぷんの食物を与えますと、下痢を起こしやすくなります。

2) 環境によるもの

ウサギはとてもデリケートな動物なので、暑さ・寒さ・すき間風・湿った床・多頭飼育などの精神的ストレスがあると、下痢を誘発することがあります。

3) 寄生虫によるもの

消化管の寄生虫として、コクシジウム・ジアルディア・クリプトス・ポリジウム・ウサギギョウ虫などが知られています。なかでもコクシジウムは、激しい腸炎を起こします。特に子ウサギでは水溶便・粘液便・血便などになります。衰弱して急死することもあります。

4) 粘液性腸炎

7～14週齢のウサギによく見られ、死亡率の高い病気です。盲腸で粘液がたくさん作られるのが特徴で、粘液性の下痢を起こします。盲腸で炭水化物が発酵するなどして、PH低下（酸性になる）などが起きると、細胞叢が異常になり、炎症が起きます。それが、粘液産生の原因と考えられています。

5) 腸性毒血症

急な食餌の変化・ストレス・ある種の抗生物質などにより、腸内にいるクロストリジウムが異常に増え、菌の産生する毒性が血液の中に吸収されて、下痢が起きます。

その他、ティーザー病（細菌によるもの）ウイルス性腸炎・エルシニア症などがあります。

下痢の症状

乾し草をたっぷりしっかり食べて、元気も食欲のある健康なウサギの便は、適度に固く、もっこり大きくて立派です。色は黒っぽく、形はまん丸で、数もいっぱいポロンポロンと出ます。匂いもあっさりしています。

下痢になると、柔らかくて形が崩れていますし、色も匂いもいつもと違ってきます。水のようになったり、とろっとした粘液が混じったり、血便になったりします。

下痢をしていると、尾やお尻のまわりの毛が便で汚れやすくなっていますので、気をつけているとわかります。

健康そうで気になることがなくても、飼いはじめは1ヵ月ごと、その後は年に2~3回、検便をおすすめします。

治療と予防

1) 食餌の管理

下痢を防ぐために食餌はとても重要です。繊維・タンパク質・炭水化物をバランスよく与えることが大切で、チモシーの乾し草を中心に、たっぷり主食にして、ペレットは大きさ1杯、野菜を少量補助食として与えましょう。繊維は胃腸の働きを高め、下痢を防ぎます。豆類・トウモロコシはタンパク質が、イモ類はでんぷんの含量が多く、腸内細菌叢の異常を起こしやすいので避けましょう。

2) 環境によるもの

環境の変化をできるだけ避け、多頭飼育の場合は、衛生面と高湿度にならないように気をつけましょう。カビや病原菌が増えるからです。

3) 寄生虫の予防

集団で飼われていたウサギでは、感染する機会が多いので、飼いはじめのときはすぐ検便をしましょう。土の中では、寄生虫卵やコクジウムのオーシストは長く生存するので、便の処理はまめにしましょう。トイレを一定の場所にし、新聞紙など利用して、使い捨て

にすると衛生的です。

4) 粘液性腸炎

高繊維で低炭水化物の食餌を与えることが、予防につながります。

5) 腸性毒血症

離乳期から離乳後（生後 3～8 週齢）のウサギでよく見られますが、高カロリー食の成長したウサギや、産後間もない授乳中の母ウサギもかかることがあります。ミルクを通して、子ウサギも乳性毒血症になることが知られています。食餌・環境には十分注意しましょう。

下痢をしてしまった場合、どんな原因にしても、早めに動物病院へ連れて行き、どうして下痢が起きているのかを可能な限り見つけてもらいましょう。回復力を高めるために、症状に合わせて輸液・整腸剤・胃腸機能が依然剤などで治療をすることが多いでしょう。食餌・環境のチェックも念入りにして、ストレスを少なくし、免疫力を高めるように心がけましょう。

あの空を飛べたら

沖縄で獣医師の年次大会があった。横浜との温度差は何と 18 。那覇空港のトイレでワンシーズン分、行きも帰りも着替えて丁度という気候だった。

私たちの病院の患者さん T さん親子は、愛する鳥のため、ただそれだけで暖かい沖縄へ引っ越した。今回学会で沖縄へ行くと言ったら、「先生、往診に来て。ウサギも飼おうと思って、その話も聞きたいから」と、学会の沖縄のコンベンションセンターまで迎えに来てくれた。

はじめて食べるタコライス（白米・タマゴ・チーズ・ひき肉・レタス・豆を好みでよそり、そこにタコソースを混ぜて頂く、タコスの変形メニュー）をおいしく頂きながら、沖縄のペット事情、ウサギは少ない話を聞いた。

六部屋もある平家、庭にバナナとパパイヤの木、私も寝られる犬小屋付きで、あっと驚く家賃は 6 万円。横浜はワンルームで 5 万 5 千円なのに！ セキセイインコのボス・レモン・ピュア・モユ・サラン・アマナちゃん、常夏の冬にごきげんで全員元気だった。一部屋は鳥専用、もう一部屋をウサギ用と計画。そこで飼育のポイントは、たっぷりの乾し草と水・温度管理と話した。

帰りの車の中から外を見ると、とっくりやしに青い海、日本とは思えないトロピカルな風景だ。と、犬があっちにフラフラ、こっちにウロウロ。捨て犬・捨て猫が他県に比べて多いそうだ。しかも人里離れた北部、ヤンバルクイナの生息地へ捨てに行くとか。当然、お腹を空かした猫たちは、天敵である鳥、しかも飛べない鳥・ヤンバルクイナを狙う。飛翔力がほとんどなく、原生林や沢沿いの藪の中をただ走り回るヤンバルクイナは、逃げた

くても空を飛べない。そこで天然記念物にもかかわらず絶滅に瀕しているわけだ。

悪い猫を捕獲し処分を、という話も出そうだが、次世代を担う子どもたちに、その殺処分の説明をするには惨すぎる。そこで、クイナも猫を守ろうと、沖縄の獣医師たちが猫の避妊をし、捨て犬や捨て猫防止活動のために、マイクロチップを埋める運動もしているそうだ。

たった 1 泊 2 日の蜻蛉返りの沖縄学会だったが、久しぶりの T さん一家にウサギのかわいさも伝えられ、また、同じ仲間の獣医師たちの熱意ある奮闘ぶりに、私も頑張らなくちゃ！ と、充実の旅だった。